

第3回京丹後市文化財保護審議会

- 1 開催日時 平成22年12月21日(火)午後1時30分～午後4時00分
- 2 開催場所 アグリセンター大宮 視聴覚教育室
- 3 出席者 田中光浩委員、平井久夫委員、糸井秀太郎委員、
吉江俊昭委員、城下圭介委員、藤田泰弘委員、富澤孝雄委員、
足達礼三郎委員
- 欠席者 吉岡英一委員、今村純訓委員
- 事務局 米田教育長、吉岡教育次長、三浦館長、吉田課長、横島補佐、
橋本主任技師、小山主任
- 傍聴人 0人
- 4 内容
- (1) あいさつ
- (2) 議事
- ① 平成23年度文化財関係予算について 資料1～3
- ② 京丹後市指定文化財について
- ③ その他
- 5 要旨

● あいさつ (米田教育長)

みなさんこんにちは。寒い日になりました。今年も残りわずかになりました。あと10日でお正月を迎えるあわただしい時にご出席いただきありがとうございます。今年度の文化財関係事業にご支援をいただき感謝申し上げます。松山遺跡の発掘調査も現在報告書の作成を行っています。また、山陰海岸がこの秋世界ジオパークにも認定され、現在学校教育でどのように子どもたちに教えていくかを検討している最中です。現在来年度予算の編成時期です。市の財政も大変ではありますが、文化財の重要性を強調し、予算確保できるよう努めているところです。教育委員会としては学校の耐震補強工事を小学校10校、棟数にすると13棟約6億8千万円の予算をかけて取り組む予定もしています。また、学校再配置の関係では明日議会で議決される予定で、どのような議決になってもいよいよ本格的に再配置の事業が動き出します。今回の審議会でも前回に引き続き市の指定文化財の審議もお願いすることになっています。どうか慎重審議をよろしく申し上げます。

(会長) みなさんこんにちは。師走のあわただしい中お集まりいただきありがとうございます。本日の議題は、来年度予算の概略、新市指定文化財の審議を

お願いしたいと思います。午後 4 時 30 分には終了したいと考えています。本日は砂の標本を準備していますので、休憩時間を利用してみていただきたいと思います。夏以降、両丹文化財保護連絡協議会や委員研修視察と参加にご協力ありがとうございました。本日もよろしく申し上げます。

(事務局) 本日は、2 名の委員より事前に欠席の連絡を受けていますので、ご報告いたします。それではこれより先の議事進行については、会長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議事

①平成 22 年度文化財関係事業について

(会長) それでは、1 の議題平成 23 年度文化財関係予算について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 事前送付した資料 1 平成 23 年度文化財関係予算(現課要求額)について説明をいたします。—資料説明—

資料 2・3 については課長より説明いたします。

(事務局) まず資料 2 から説明をします。今年は国民文化祭のプレ大会として、歴史散策を実施しました。50 人募集しましたが、締切が早いこともあって実際の参加者は 26 人でした。短歌大会には 1291 首の応募がありました。今年行われた岡山の大会には全国から応募があり、総数 15,222 首と聞いています。来年度の大会に向けて社会教育課で準備を進めていますが、文化財保護課も 10 月 29 日の午後に歴史散策を行う予定です。天候不順な時期に開催するので、歴史散策も屋内施設を多くコースに組み込みました。A コース『浦嶋と琴引浜をたずねて』は 35 名募集を予定しています。先日 1 回目の企画委員会が開催され、来年 2 月に予定されている 2 回目で正式に決まります。来年のメイン会場は丹後文化会館ですので峰山町起点のコースを想定しました。18:00 から関係者の懇親会が予定されているので、その時間までに終了するように設定しています。B コースは『小町の伝承と久美浜をたずねて』としています。久美浜方面は車中の時間が長いため、車内でのいろいろな説明も考えています。前日の午後開催するので、参加者も近隣の方が中心になるかと思いますが、4 月から募集をはじめ、応募者が多い場合は抽選をする予定をしています。

続いて、資料 3 の方ですが、中学の副読本を作る事業です。10 月 19 日に副読本作成委員会を立上げ、現在作業を進めているところです。旧町時代にそれぞれの町で副読本が作成されていましたが、市になってから全体を網羅したものがなく、子どもたちの教材としてもそういったものが必要であるという声もあり、作成するものです。平成 23 年度中に A 4 版 70 ページのものを予定しています。委員会には学校の先生や行政関係者、そしてこの文化財保護審議会の

委員にも委員になっていただき、検討を進めているところです。

(会長) ただいま事務局より説明がありました平成23年度の予算、国民文化祭、中学校副読本について、何か質問や意見があればお願いします。

(委員) 旧口大野村役場改修、丹後震災記念館躯体調査の予算要求をしているようですが、どのような活用法を念頭においているのか教えてもらいたい。

(事務局) 震災記念館の1階部分は現在練成道場として使用していますが、建物自体相当老朽化しているので、その老朽化の度合いを調査してもらわないと雨漏りもひどくなり、その原因もよくわかっていません。4箇所のコア抜き取りや専門家の目視で調査してもらい、その後今後どのような活用ができるかを検討していきたいと考えています。活用するには莫大な金額が必要だと考えています。

(委員) 鉄筋は錆びてボロボロだと思います。

(事務局) 旧町時代に窓枠だけ修理見積も6千万円程度必要だとなっています。

(委員) 既に建物の耐用年数をオーバーしています。修理してもいつまでもつのか疑問があります。

(事務局) 既に建物として文化財に指定しているので、当面雨漏りの対応をしなければと考えています。いずれにせよ、建物の使い方は調査結果が出てからになります。

旧口大野村役場については、2階は展示スペースとしての利用を考えています。1階も使用できるよう全面改修を行い予算要求しています。国の登録文化財になっているので中に入って見学できるようにはしたいと思っています。ある区から1階部分は老人の憩いの場として利用をしたいという要望も受けています。2階の展示は通年行うのではなく、期間を区切っていろいろなものを展示する予定をしています。予算要求はしていますが、財政的にも厳しい中、現実事業ができるかどうかは不明な状況です。

(委員) 他の自治体でも高齢者と子どもたちの交流施設を整備している事例があります。それを念頭において計画を進めてもらいたい。

(委員) 古代の里資料館のパンフレットが予算で認められなかったという説明があったが、上山寺の図録には棟札の読み違いがかなり多く見受けられる。印刷前に内容をチェックする体制がないのはまずい。以前にパンフレットの内容がおかしいという意見は文化財保護課に伝えた。実物を見分していないので100%とはいえないが、棟札には定型化された表現があるので、それを考えると明らかに間違っていると思われる。職員一人だけで作成するのではなく、内容の点検をキチンとして増刷をするならしなければ、税金の無駄使いになってしまう。

(館長) 今回作成するパンフレットは入館者に配布する施設のパンフレットであり、指摘されている上山寺のものではない。

(事務局) 委員は上山寺に関する図録の事を言われていると思うが、確かに内容がまちがっていたら訂正することは必要だと考えます。今回作成するものは館長がいうパンフレットで、古代の里資料館は年間 5,000 人程度の入館者がいるため、資料等で配布する分を含めて、およそ 2 年間分の増刷を考えています。予算が認められなかったのは 12 月補正で、来年度事業として引き続き要求して行きます。補正予算も財政査定が通った段階なので正式には議会の議決を受けて決定ということになります。

(委員) 丹後震災記念館に掛けられている絵は震災時の貴重な資料だと思うがその傷みが気になるのだが。

(事務局) 絵の修理の見積もりを取った事があります。大きな絵で 1 枚 100 万円ほどかかるので、3 枚で 300 万円になります。伊藤快彦氏が震災の様子を依頼されて描いたもので、静物画の多い伊藤氏には珍しい作品です。

(事務局) 震災記念館に絵はほかにも井藤翠湖の小さな絵が 2 枚ありますが、昭和 40 年代の作成でもあり、それほど傷んではいません。絵画では小牧源太郎の絵も 60 枚程度寄贈を受け、修理したことがあります。

(委員) 寄贈を受けた絵はどのように管理しているのですか。

(事務局) 現在は収蔵庫にあります。寄贈を受けた絵は今後公共施設、例えば図書館や公民館で飾る活用していきたいと考えています。

(委員) 震災の様子がよくわかる大変貴重な絵だと思っている。絵が長く引き継がれるように考えてもらいたい。

(委員) 丹後震災記念館の屋根に水がよくたまると思うのだが。躯体調査もよいがその対応も考えてもらいたい。

(事務局) 職員が定期的に落ち葉等を取除きには行っているが毎日点検に行っているわけではありません。

(委員) 建物の樋が詰まって屋根に水がたまるのを何とかできないものか。

(委員) 市史編さん事業で峯山藩の資料が刊行されたが、誰がどこを執筆したのかわからない。峯山藩の殿様が江戸城の縁側の間に出勤していたと書いてあるが、そのような事実は調べても無い。菊の間の横に広い縁側があり、そこに禄高の少ない殿様が出勤していた。文責のない歴史書はまずいのではないか。

(事務局) 文責については巻末に執筆者がわかるように記入してあります。

(委員) 丹後建国 1300 年記念事業の全体像を教えてください。

(事務局) 丹後国の現在の行政範囲には声をかける予定をしています。

(委員) 京丹後市が事業の中核を担う形になるのですか。

(事務局) 丹後国 5 郡のうち京丹後市にその中心はあるので、当然中心的な役割を担うことになると考えています。しかし、歴史的にみると、丹後建国後はどちらかといえば勢力が下り坂に向っているので、どのような展示をすればよいか悩んでいます。一番のシンボルになるものが見当たらないのが現状です。そんな中でも、丹後風土記に出てくる浦嶋伝説や羽衣伝説を中心にすれば、観光とも結びつきやすいのではと考えています。

(委員) もう間近に迫っているのだから、主体をキチンと決めて早急に準備する必要があると思う。

(館長) 来年のシンポジウムは建国 1300 年を市民に P R することを目的として行うのか。

(事務局) 丹後国建国前の時代である古墳時代を中心においたシンポジウムを行い、機運を盛り上げていきたいと考えています。

(館長) 森浩一先生が、シンポジウムをやりたいと考えている。その受け皿となれるかもしれない。

(事務局) 来年のシンポジウムは補助金の申請をしています。京都府内では綾部市と京丹後市の 2 市と聞いています。予算規模は 80 万円程度です。認められるかどうか年内にも回答があります。

(委員) 中学生の社会科の副読本を作成するようだが、地域を小中学生が学ぶのは大変良いことだと思う。どのような形で活用する予定をしているのか。

(事務局) 小学生は 3・4 年生が対象です。それと中学校の社会科副読本です。活用方法については委員の中でもいろいろな意見が出ています。社会科の副読本だけでなく、丹後ちりめんのような地場産業やジオパークの科学的な要素も必要という声もありました。学校の先生からも授業に地域の事を取り入れると生徒も強い関心を示すと聞いています。来年から新学習指導要領が実施され、学習時間の確保が難しい面はありますが授業で十分活用をしていきたいと思っています。また、子どもが丹後のことを知らないのは資料がないからだという意見もありました。地域密着型の副読本が子どもの傍にあるというのも大切なことだと考えています。また、学校の先生も地域の事を知るのに積極的に活用してもらいたいと考えています。

(委員) 宇川も里力づくり事業というものに現在取り組んでいます。地域の事を大人も子どもも知ることが基本だと思う。中学だけでなく、小学でも是非積極的に取り組んでもらいたい。

(委員) 高龍中学校から、来年度地域を知る授業への取組みを行うので協力をお願いしたいという要請を 10 月頃聞いた。大変良いことなので協力したいと考えている。

(会長) 来年度の国民文化祭の事業で文化財保護審議会として協力するような案件があるのか。

(事務局) まだそこまで具体的には決まっています。資料づくりといった方面でお願いすることがあるかもしれません。

(会長) ほかに何か質問やご意見はありませんか。なければ10分ほど休憩をします。

② 京丹後市指定文化財について 非公開

③ その他

(事務局) 全体を通して何か意見はありませんか。

(委員) 奇石・奇岩の中で名前がついている岩はあるのか。

(会長) たくさんある。地元で名前が付けられている岩は多いと思う。

(委員) 菊紋石がどこにあるのかわからない。採取を恐れた稲葉さんが記録を残さなかった。外にも雨が降ると土器が現れる久美浜湾沿いの散布地がある。

また、先日代官所文書について、市へ寄贈という話がまとまりかけたが、やはり都合でだめになった。また機会を作りたいので、その時もよろしくお願ひしたい。

●閉会あいさつ (富澤副会長)

今年一年審議会では審議をいただき、ありがとうございました。研修みの協力いただき、暮のお忙しい時に時間を割いていただきました。交通事故等にも気を付けていただき、明るい正月を迎えていただきたいと思います。本日はご苦勞様でした。